

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **47** 号

平成15年 10・11・12月



第四扇



第三扇

鳥毛篆書屏風(正倉院・北倉)

特
別
展

第55回 正倉院展

東・西新館

10月25日(土)～11月10日(月)

平
常
展

仏教美術の名品

本館～12月25日(木)

西新館 11月29日(土)～12月23日(火)

平
常
展

中国古代青銅器

本館

～12月25日(木)

今年の正倉院展は、鳥毛篆書屏風、十合鞘御刀子、平螺鈿背円鏡など聖武天皇と光明皇后が身辺に置かれた品々をはじめ、東大寺で用いられた仏具や献物凡・箱、奈良時代の衣装や佩飾品、薬物と顔料、文書類など六十六件が出陳されます。正倉院宝物の主要なジャンルが見渡せるよう宝物がリストアップされていますが、今回は特に刺繍作品、佩飾品、薬物と顔料およびその関連品がまとまっている点に特徴があります。

正倉院の刺繍作品は、ほかしの効果を出しやすい「差し繡」を中心としており、縹緗文様や鮮やかな色彩が巧みに表現されています。また、佩飾品は貴人が腰帯から下げた飾りで、東大寺大仏の開眼時などにしばしば献納されたため正倉院宝庫に数多く伝来しています。今回は数色のガラスによる魚



白瑠璃高環 (中倉)

- ◆会期 10月25日(土)～11月10日(月)
会期中無休
- ◆会場 奈良国立博物館 東・西新館
- ◆主催 奈良国立博物館

特別展



馬鞍 (中倉)



絵紙 (中倉)

形やサイ角製の斑犀合子などのほか、匂い袋の小香袋や美しい刺繍が施された刺繍羅帯が出陳され、奈良時代の貴人たちの装いを見ることが出来ます。また、雲母粉、銀泥、丹、雄黄、紫鑲など、薬石類が出陳されるほか、銀粉を入れていた柳箱、絵具皿であつたと思われる佐波理皿、美しい彩色が施された絵紙や献物几、箱が展示され、奈良時代の工房の様子を感じることが出来ます。文書類は戸籍や正税帳などが出陳されるほか、顔料に関わる文書が含まれているのも注目されます。

《主な出陳作品》

鳥毛篆書屏風、十合鞘御刀子、平螺鈿背円鏡、紅牙撥鏤尺、玳瑁杖、馬鞍、平脱鳳凰頭、錦紫綾紅臈纈緋間縫裳、斑犀合子、瑠璃魚形、羅道場幡、東大寺開田地図、酒人内親王献入帳、正倉院古文書正集第二十四卷（御野国加毛郡半布里戸籍）、続々修正倉院古文書第四十六帙第四卷（絵花盤所解、紫微中台牒、造花様他）、雲母粉、銀泥、丹、絵紙、金銅六花形盤、白瑠璃高坏、瑇瑁坏、碧地金銀絵箱、金銀絵長花形几、桑木木画基局など

第55回 正倉院展



紅牙撥鏤尺〈表・裏〉（中倉）



平螺鈿背円鏡（北倉）

ついに実現した南アジア彫刻展の同時開催

大阪大学総合学術博物館長 肥塚 隆

南アジア彫刻の二つの展覧会が、昨年十月から本年八月にかけて、東京国立博物館、広島県立美術館、名古屋市博物館、そして最後に奈良国立博物館を巡回して開催された。『インド・マトゥラー彫刻展』と『パキスタン・ガンダーラ彫刻展』とであり、日本がインドおよびパキスタンと国交を樹立して昨年で五〇年が経過したことを記念する特別展であった。評者は東京と奈良の二会場を訪れたのみであり、展示については何度か通った奈良会場を主に取り上げることにする。

まず何よりも、インドとパキスタンの両国から借用した彫刻の名品を同一会場で、同じ会期で開催する展覧会がついに実現したことを、心から喜びたい。インドとパキスタンとはカシミア地方の帰属やその他の問題で対立反目し、三次にわたる戦争のほか、衝突を繰り返してきた。それだけに、両国から借用した作品を一堂に展示することは至難のことであり、交渉にあたられた関係者のご努力に大いに敬意を表したい。同一会場での同時開催でありながら、独立した二つの展覧会とし、図録も二分冊となっている点に、そのご苦労がにじみ出ている。また両国の文化省や博物館の方々にも、深く感謝しなければならない。欧米の博物館にとってもモデル・ケースとなったであろうし、今後同様の形式の展覧会が開催されることを願ってやまない。

しかも、仏像が誕生したクシャーン時代にほぼ限定して展示作品が選ばれていたのも、内容の充実した展覧会となった。ほぼ同時期に仏陀像の制作に踏み切ったガンダーラ地方とマトゥラーとであるが、両者の美意識がいかに違うかを知る絶好の機会であった。さらに『パキスタン・ガンダーラ展』には、東京国立博物館による一九九九年のザールデリーの発掘調査で出土した作品も展示さ

れていた。これまで知られていたガンダーラ彫刻とはかなり異質な作風の作品であり、これらが世界で初めて公開されたので、研究者にとってはきわめて意義深いものであった。ガンダーラ彫刻に対する通念の革新を迫るものであり、ガンダーラ研究の新しい面が開かれたといっても過言ではない。

作品の展示方法でありがたかったのは、奈良会場でマトゥラー彫刻の多くを背面まで見られるように並べられていた点である。マトゥラー博物館やニューデリー国立博物館でも見ることができなかった背面を奈良国立博物館で拝見できたのは、とてもうれしく大変勉強になった。しかし残念だったのは、会場の照明が暗かったことである。スポットライトによってある程度は補われていたが、もともと会場全体を明るくしてほしかった。日本の博物館や美術館は建物そのものが作品の退色を防ぐために、自然光を遮断する構造になっている。日本の美術作品とは異なり、南アジアの彫刻の多くは当初の彩色が剥落してしまった石彫であるから、インドやパキスタンには外光を取り入れ、時には直射日光が作品に当たる博物館すらある。また、寺院の外壁にはめ込まれていた作品も少ないので、むしろ明るい照明のもとで展示するのが本来の姿であろう。

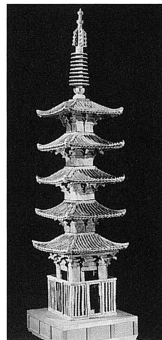
展示以外の点で意義深いと感じたのは、奈良国立博物館で八月二日に一度、最後の二日間に各二度、インド古典舞踊のオリシィ・ダンスが演じられたことである。ことに八月二日には作品の前でいわば舞踊を奉納する形で行われたという。評者は残念ながら所用のため鑑賞できなかったが、インド彫刻のポーズと舞踊のそれとは密接な関連があり、さぞかし興味深い催しであったに違いない。永年インドで舞踊を学んでこられた柳田紀美子さんの申し出を博物館が快諾したことに、大いに拍手したい。



インド古典舞踊の実演



土偶〔山形・杉沢遺跡出土〕(当館)



瓦塔〔静岡・三ヶ日出土〕(当館)



獅子座火焔宝珠形舍利容器(当館)

平常展

「仏教美術の名品」

西新館 11/29 ~ 12/23

【考古】

〈縄文時代の生活〉

土偶〔山形・杉沢遺跡出土〕、深鉢〔伝青森・伝茨城出土〕(以上当館)

〈弥生の祭祀用青銅器〉

銅鈴〔長崎・黒島出土〕、銅鐸〔妙国寺〕、銅鐸〔静岡・釣荒神山出土〕(以上当館)、●銅鐸〔滋賀・石山寺出土〕(石山寺)

〈古墳時代の鉄生産〉

五条猫塚出土品、二塚古墳出土品、●鉄製武器類〔奈良・天神山古墳出土〕(以上当館)

〈古墳時代末期の葬送〉

陶棺〔奈良・西大寺出土〕(当館)

〈仏教考古〉

蓮華文鬼瓦〔奈良・奥山久米寺出土〕(京都国立博物館)、蓮華文鬼瓦〔奈良・山村廃寺出土〕(個人)、鬼身文鬼瓦〔奈良・葉師寺出土〕(京都国立博物館)、●鬼瓦〔伝奈良・大安寺出土〕、鬼瓦〔奈良・秋篠寺出土〕、鬼瓦〔愛知・杜山古窯出土〕(以上個人)、●鳳凰埴〔南法華寺〕、●石製九輪〔奈良・山村廃寺出土〕(円照寺)、●栗原寺伏鉢〔談山神社〕、●元興寺塔跡出土鎮壇具〔元興寺〕、霊安寺塔跡出土鎮壇具、瓦塔〔静岡三ヶ日出土〕、花禽双鸞八花鏡〔伝大阪・開口神社付近出土〕、●佐井寺僧道葉墓出土品、●山代忌寸真作墓誌、●出雲萩

抒古墓出土品(以上当館)、●青磁鉢〔正暦寺〕、●石製弥勒如来坐像〔長崎・壹岐鉢形峯経塚出土〕、陶製経筒〔愛媛・北条市出土〕(以上当館)、●藤原道長願經〔奈良・金峯山経塚出土〕(金峯神社)、紙本墨書法華經〔和歌山・粉河経塚出土〕、紙本朱書法華經〔伝大分県出土〕(以上当館)、●紙本朱墨交書法華經〔和歌山・王子神社経塚出土〕(王子神社)、●銅板經〔大分・長安寺経塚出土〕(長安寺)、瓦經〔福岡・飯盛山経塚出土〕、青石經〔愛媛・大日堂経塚出土〕、泥塔經〔鳥取・智積寺経塚出土〕(以上当館)

【工芸】

木製宝塔〔当館〕、金銅火焔宝珠形舍利容器〔個人〕、五輪塔嵌装舍利厨子、獅子座火焔宝珠形舍利容器(以上当館)、●金銅透彫華鬘〔神照寺〕、竹製華籠〔性海寺〕、金銅装説相箱〔個人〕、●黒漆戒体箱〔万徳寺〕、●金銅透彫幡頭〔中尊寺金色院〕、●金銅透彫華鬘、錦幡、三脚卓、磬架、孔雀文磬(以上当館)、●銅鏡〔円福寺〕、●金銅四天王五鈇鈴〔弥谷寺〕、金銅四天王五鈇鈴、金銅五大明王五鈇鈴、銅四大明王宝塔鈴(以上個人)、銅独鈷鈴、白銅五鈇鈴、銅五鈇鈴、金銅独鈷杵(以上当館)、金銅三鈇杵〔個人〕、金銅五鈇杵、輪宝、羯磨、金銅火舎、金銅華瓶、金銅盤、六器、火舎(以上当館)、●堆朱香合盆〔聖衆来迎寺〕、柄香炉〔高山寺〕、金山寺香炉〔長谷寺〕、金山寺香炉〔当館〕、

●錫杖頭〔個人〕、黒漆数珠箱、●金銅鯉口、●梵鐘、梵鐘(以上当館)

【書跡】

大悲經〔五月一日経〕(正暦寺)、自在王菩薩經〔五月十二日経〕(海龍王寺)、般若燈論〔藥師寺〕、増阿含經卷第三十九〔善光寺〕、印經〔当館〕、紺紙金字法華經〔興聖寺〕、宋版熾盛光仏頂大威徳銷災吉祥陀羅尼經〔上之坊〕、悉曇藏、名教抄、不動護摩次第〔以上当館〕、春日権現講式〔高山寺〕、●東大寺開田図〔当館〕

【絵画】

●釈迦八相図〔大福田寺〕、●釈迦八大菩薩像〔松尾寺〕、阿弥陀浄土図〔当館〕、●阿弥陀聖衆来迎図〔阿日寺〕、●地藏菩薩像〔当館〕、●毘沙門天像〔知恩院〕、●胎藏圖像、諸観音圖像、●大仏頂曼荼羅〔以上当館〕、●法華曼荼羅〔松尾寺〕、六字経曼荼羅、●虚空蔵菩薩像、千手観音二十八部衆像(以上当館)、不動明王像〔知足院〕、●俱利伽羅竜剣二童子像〔当館〕、●五明王像〔乗寺〕

特集展示

「春日曼荼羅」

西新館 11/29 ~ 12/23

●春日宮曼荼羅〔奈良・南市町〕、春日宮曼荼羅〔当館〕、春日宮曼荼羅・仏涅槃図〔以上個人〕、春日名号曼荼羅、鹿島立神影図〔以上当館〕、春日鹿曼荼羅〔奈良・西城戸町〕、春日本迹曼荼羅〔個人〕、春日千体地藏図、春日文殊曼荼羅、春日毘沙門天曼荼羅、春日社寺曼荼羅、春日社寺曼荼羅〔以上当館〕、春日南円堂曼荼羅〔長谷寺〕、春日赤童子像〔植槻八幡神社〕

平常展

「中国古代青銅器」

本館第14・15室 12/25

爵、尊、鼎など商・殷・周期のものを中心に様々な器種を一四〇点展示しています。

●国宝、●重要文化財
出陳作品は都合により一部変更する場合があります。

韓国国立慶州博物館での『日本の仏教美術』展開催

前号では、今春、主催機関の一つとして奈良博が参加し、ニューヨークで開催された「日韓初期仏教美術展」について紹介しました。それ以外にも当館は日本文化や東アジアの文化を広く紹介するため海外での展覧会を開催しています。

そのひとつが、12月21日から来年2月1日まで、韓国国立慶州博物館（以下、慶州博と略称）において開催します『日本の仏教美術』展です。慶州博と当館は、これまで姉妹館として活発な学術交流を行なってきましたが、さらなる友好を深め、両国の国民にそ

れぞれの文化を紹介するべく共同開催展を開くことになりました。まず今年は慶州において、当館の所蔵品・寄託品のなかで特に仏教に関するものを選んで展示します。日本と朝鮮半島における政治的、宗教的、文化的といった多様かつ密接な交流関係のなかにあつて、仏教伝来は特に日本文化が大きく発展する契機となり多大な影響を与えました。今回の展示では、飛鳥時代から平安時代、鎌倉時代までの仏教美術作品

の精華を紹介するものです。

慶州博はかつて新羅の首都として栄えた慶州市に所在し、市内および周辺地域には数多くの遺跡が散在しています。慶州市は韓国内外から多くの観光客が訪れる有名な歴史的観光地で、慶州博の来館者も年間数百万人を数えます。この展覧会を通して、韓国のみなさんに日本美術の展開および両文化の交流や影響関係をご覧いただきます。そして、韓国文化と日本文化に対する関心と理解が高まり、両国の文化交流がますます活発になることと思います。



◎重要文化財 十一面観音立像(当館)

●公開講座●

- 10月25日(土)「鏡と鏡箱」 内藤 栄 (工芸室長)
11月 3日(月)「正倉院文様の転写技法について」 西川明彦 (宮内庁正倉院事務所整理室長)
11月 8日(土)「正倉院の刺繍」 河上繁樹 (関西学院大学教授)

●場所：講堂、時間：13:30～、定員：200名、聴講無料

●ギャラリートーク●

- 10月 8日(水)「獅子・狛犬」 岩田茂樹 (企画室長)
11月12日(水)「商周青銅器の文様」 難波純子 (調査員)
12月10日(水)「東大寺開田図の世界」 野尻 忠 (研究員)

●場所：展示室、時間：14:00～、入館者聴講自由

●親と子の文化財教室 「平安時代の歴史と美術」 受講者募集●

- 第6回 10月11日「平等院を訪ねて－極楽浄土の世界－」〔現地見学〕 稲本泰生 (教育室長)
第7回 11月22日「最澄と空海」 西山 厚 (資料管理研究室長)
第8回 12月13日「平安時代の工芸」 内藤 栄 (工芸室長)

●小学5・6年生、中学生を対象にした教室です。 ●葉書またはFAXで「親と子の文化財教室希望」と明記の上、住所・氏名・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加希望の回（何回でも可）を記入して当館教育室までお申し込みください（TEL.0742-22-7008、FAX0742-22-7221）。 ●参加費は無料ですが、現地見学では実費が必要です。 ●時間：10：00～12：00 ●会場：現地見学以外は当館講堂 ●定員：200名

●展覧会日程●

	10 月	11 月	12 月
本 館	平常展〔彫刻〕・〔中国古代青銅器〕（～12/25）		
西 新 館	正倉院展（10/25～11/10）		平常展（考古・工芸・書跡・絵画）（11/29～12/23）
東 新 館	正倉院展（10/25～11/10）		

展示品の 見どころ

第55回正倉院展 へきじきんぎんえのはこ 碧地金銀絵箱(中倉)

日本最古の刺繍として名高い天寿国繡帳(飛鳥時代、中宮寺所蔵)に、寺院と思われる場面がある。その中に参拝に訪れた身分の高い女性の姿が見えるが、興味深いのは女性の後方に控えるお付きの二人の女性が捧げ持つ品物である。ひとりはお香炉、もうひとは両手で箱を大事そうに捧げている(写真1)。お香炉は仏を香りで供養する道具であるから、同様に箱の中にも仏を供養する品が入っているのであろう。

この場面は古代の人々が仏に献物する際、箱に品物を納めて献じたことを物語っているが、正倉院には献物の品を入れた箱(献物箱)と机(献物几)が伝わっており、奈良時代における献納の様子を垣間見せてくれる。それらは紫檀や黒柿などの珍貴な材を用いたり、彩絵や木画など入念な装飾を施したのも多く、中身はもとより箱や机にも心を込めたことが伝わってくる。



写真1 天寿国繡帳(部分)



碧地金銀絵箱

今回展示される碧地金銀絵箱はヒノキ製の長方形の箱で、底に床脚を付けている。床脚により箱は床(あるいは机)より数センチであるが浮いており、仏に恭しく品物を献じた気持ちがうかがえる。外面は碧色の顔料で塗り、蓋表と四側面に金銀泥で鳥、蝶、小花文を描いている。緑を蘇芳で塗り、金泥で小花文を並べている。床脚は胡粉を塗り、銀泥で隈を取っている。箱の中には長斑錦と八稜唐花文の白綾が張られた美しい囃が納められている。

底には「千手堂」の墨書銘があり、東大寺の東方の山中にあった千手堂に献納されたものであったことがわかる。千手堂は東大寺でも早い時期に建立された堂宇であったが、中世以降は存在が確認できない。碧地金銀絵箱は千手堂の数少ない遺品として貴重である。

(内藤 栄)

■開館時間 9時30分～17時(11月14日までの毎週金曜日は19時まで)
ただし、正倉院展期間中は9時～18時
※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休館日 月曜日
(ただし正倉院展中は無休、12/26日(金)～31日(水)は年末休館日)

■観覧料金


平常展		大 人	大学・高校生	
	一 般	420円	130円	
	団 体	210円	70円	
正倉院展		大 人	大学・高校生	中学・小学生
	一 般	1,000円	700円	400円
	団体・前売	900円	600円	300円

*団体は責任者が引率する20名以上。



〔交通案内〕近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(90円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の企画室にお申し込みください。

 **奈良国立博物館**
Nara National Museum